

「福岡市立こども病院の移転に関する小児2次医療連絡協議会とりまとめ」の総括
平成28年7月

◆ 会議

会議名	福岡市西部地区における小児2次医療連絡協議会		
開催日	平成28年6月6日（月）		
委員	国家公務員共済組合連合会浜の町病院院長	一宮委員	
	福岡大学病院院長	井上委員	
	福岡市医師会会長	江頭委員(委員長)	
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター院長	村中委員	
	福岡地区小児科医会会長	下村委員	
	地方独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院院長	原委員	
	福岡市保健福祉局理事	永淵委員	
開催目的	こども病院移転から1年半が経過し、フル稼働が目前となったことから、平成25年4月の「福岡市立こども病院の移転に関する小児2次医療連絡協議会とりまとめ」について、ポイントとなる事項の現状の確認を行い、その総括を行うもの。		

◆ 総括

こども病院移転後の福岡市西部地域における小児2次医療については、医療資源は充足しており、特に問題は発生していない。

《現状》
 ○移転による影響を受ける西部地域の小児2次医療患者数は、想定よりも少なかった。
 ○移転前に比べ、西部地域の多くの病院では小児科医師数が増加した。
 ○移転前に比べ、西部地域の一部の病院では病床数又は個室数が増加した。
 ○小児医療情報ネットワークシステムによると、平成27年度の西部地域における平日の1日平均小児科空床数は平成24年度より増加している。
 ○受け皿として期待された浜の町病院と福岡大学病院では、積極的に紹介患者を受け入れており、移転後患者数が増加した。しかしながら、患者が増えたことにより、入院依頼に応じられない場合もある。
 ○福岡病院及び福岡赤十字病院は、さらなる受入が可能である。
 ○福岡病院及び福岡赤十字病院はさらなる受入が可能であるが、患者家族の中には、西部地域からの交通利便性の面で、両病院を紹介されてもすぐには了解しない方もいる。

（このため、今後は、福岡病院及び福岡赤十字病院への積極的な紹介を行うなど、今ある医療資源を最大限に有効活用するとともに、紹介にあたっては、個々の患者の事情を考慮のうえ、小児医療情報ネットワークシステムをより活用することにより、西部地域の小児2次医療提供体制を構築していくべきである。）

◆ 平成25年4月「とりまとめ」の結論

- 西部地域における小児医療の現状としては、浜の町病院、福岡大学病院、九州医療センター等、多くの病院が小児2次医療を行っており、これらの病院はまだ患者の受入余力がある。
- こうしたことから、こども病院移転後の西部地域における小児2次医療提供体制を確保するために、各病院の役割分担を明確にし、医療連携の強化を図っていく。
- 浜の町病院としては、西部地域の2次医療患者を受け入れる病院小児科となるよう、体制の増強を行う。
- 九州医療センターとしては、小児外科の分野でより一層患者を受け入れていく。
- 福岡大学病院としては、救急対応を含め、西南部における小児2次救急医療の受け皿として、より一層の患者を受け入れていく。

◆ 平成25年4月「とりまとめ」のポイントと現状の比較

		平成25年4月「とりまとめ」			現状	
1	こども病院移転の影響を考慮すべき小児2次医療患者数	①移転の影響を受ける西部地域の2次医療患者数見込み 1日あたり 15.2人			①同左 1日あたり 15.2人	
		②移転後のこども病院への西部地域からの2次医療患者数【見込み】 1日あたり 0人～3.3人			②同左【実数】 (平成27年度) 1日あたり 4.6人	
		①－② 1日あたり 約12人～15人			①－② 1日あたり 10.6人	
2	受入体制の拡充	病院名	小児科病床(個室数)	小児科医師数(常勤+非常勤)	小児科病床数(個室数)	小児科医師数(常勤+非常勤)
		A病院	10(6)	3	12(10)	4
		B病院	2(0)	3	2(0)	6
		C病院	38(16)	21	38(16)	21
		D病院	26(14)	8	26(14)	9
E病院	50(6)	11	50(10)	12		
3	各病院小児科の受入能力	○10病院中8病院が小児科の受入余力ありと回答 ※西部地域の小児科病床(こども病院を除く、影響を受ける10病院) 1日平均空床数(平日) 36.4床(平成24年度)			○一部こども病院の移転に伴い入院患者数増 ※同左(同左) 1日平均空床数(平日) 38.9床(平成27年度)	
		○医療機関相互がスムーズに連携するために有効なシステムと考えられる。有効に活用されるよう、システム改善等を検討していく。			○活用状況(ページ閲覧数) 166回(平成24年度) ↓ 1,240回(平成27年度)	